

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0177600285 | | |
| 法人名 | 株式会社 緑苑 | | |
| 事業所名 | グループホーム メープル | | |
| 所在地 | 石狩市緑苑台東3条2丁目170-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年1月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年3月1日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0177600285-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 マルシェ研究所 |
| 所在地 | 札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2 |
| 訪問調査日 | 平成30年1月23日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のふれあい」の理念を基に利用者様、ご家族様と職員が共に時を重ねてきた歩みが、ゆったりとした穏やかな生活環境やターミナルケアに生かされている。また、処遇改善加算や研修制度を活かし就業環境の向上に努めることにより、離職率低下につながることで利用者様のなじみの顔として生活の安心感となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームメープルは、四季折々に色づく並木道や大型商業施設にも近い、住宅地に位置する2004年5月に開設した14年の歴史ある事業所です。2012年からは運営法人が同じ敷地内に高齢者住宅とデイサービスを開設し、それまで培ってきた経験と介護技術で地域の高齢者を支えています。地域とのつながりを大切に、子ども野球チームに毎年寄付をするなど、高齢者だけでなく地域の子どもの支援にも力を入れています。子どもの活動を応援することで、保護者を含めた家族ぐるみの交流が生まれ、運営推進会議への参加や避難訓練への協力、イベント時のよさこいソーラン披露と広がっています。また、「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」を理念とした支援は、管理職が実践することで、職員一人ひとりに深く浸透し、利用者を尊重したケアにつながっています。事業所内は採光が保たれ、共有空間や居室はもとより、収納スペースに至るまで整理整頓、清掃が行き届き、快適安全な生活環境が提供されています。利用者には、花見やドライブなどの団体外出や、買い物・外食の個別外出、日常では近隣の公園への散歩、ボランティアの来訪などで、社会とのつながりを継続し、それぞれの希望を踏まえた介護計画に沿った豊かで穏やかな暮らしが提供されています。事業所はターミナルケアも自然な流れとして捉え、終末期の支援を希望する場合は、医療機関と連携して看取りをし、家族に寄り添った支援を行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | 取組の成果 | | 項目 | 取組の成果 | |
|---|------------|--|--|------------|---|
| | ↓該当するものに○印 | | | ↓該当するものに○印 | |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23, 24, 25) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9, 10, 19) | ○ | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18, 38) | ○ | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2, 20) | ○ | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36, 37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11, 12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30, 31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域交流に関しては可能な限り地域資源を活用する努力を行っている。理念を共有し心と心の触れ合いを大切に、一人一人がゆったりとした生活を送れるよう実践に努めている。 | 利用者が家庭生活の延長として過ごせるよう「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」を理念としています。理念は玄関に掲示し、施設長が率先して理念を実践した日常支援を行っています。目指すべき方向性が職員に浸透し、日々のケアに反映しています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | ボランティアさんの活用や隣接のサービス付き高齢者住宅との往来き、地域の子供たち、近隣の地域の方々との交流を日常的に行っている。 | 地域の子ども野球チームに毎年寄付をし、活動を支えており、保護者も含めて、事業所との様々な交流が行われています。書道ボランティアが毎月訪問し、利用者が市民文化祭に出品して作品を見学に行くなど、活動が広がっています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議やケアカフェ、街角相談所の参加などを通じ、認知症の理解を高めるとともに近隣の方々に協力を求めている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での意見を月例会議で報告し、サービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議は年6回の日程を年間計画として定め、計画案を関係者に配付しています。家族、行政、地域住民、元利用者家族が毎回参加し、現況報告のほか、家族の関心が高いターミナルケア等のテーマ研修を会議内で行い、共通の理解やサービス向上に繋げています。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 密に連携を行い、状況に応じた相談等にも気軽に乗って頂ける関係を築けている。 | 介護相談委員の来訪が毎月あります。法令や介護報酬について確認が必要な際は、都度窓口を訪問し情報交換しています。石狩市主催の街角相談室事業に参加して自治体との連携を深めるなど、良好な関係を築いています。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員が日常的に1F、2F共に連携を取り、身体拘束をしないケアに取り組むことによって、よりよい生活を送って頂けるケアに取り組んでいる。 | 身体拘束の対象となる具体的な行為11か条の一覧を各ユニットに掲示しています。新人職員研修や外部研修には、毎年数名の職員が参加し伝達研修も実施しています。赤外線離床センサーを活用し、ベッドからの転倒に備え、職員がすぐに駆け付けられるようにするなど、安全性を高めたうえで、自由な生活を送れるよう取り組んでいます。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日常的に虐待が行われないように話し合いをし、職員間の周知徹底に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は研修に参加している。現在成年後見人制度を利用している方もいるため、学ぶ機会ができ、活用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時以外の日常時も含め十分な説明を心掛けている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様と接する際になるべくコミュニケーションを図り、ご家族様の意見や要望を職員間で共有しケアの向上に努めている。 | 日常会話の中から利用者の要望や希望を聴きだし、職員間で共有しています。家族には来訪時等に情報提供を行っています。年1度の家族会には8割を超す参加があり、利用者、家族、職員が親交を深める場ともなっています。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日ごろから職員と管理者が意見交換をすることができる環境づくりを心掛けている。また、カンファレンスや月例会議を通じて常に職員が話し合える場を設けている。 | 管理者は日頃から働きやすい職場作りに取り組み、職員の意見やケアの工夫などについて、日常的に話し合っています。直近では、職員から休憩時間の確保や入浴環境についての提案があり、改善した例があります。施設長、管理者、職員による三者面談も年に一度実施しています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課を実施すると共に、処遇改善加算アップをし就業環境の向上につなげている。また、勤続年数による表彰等、やりがいの持てる就業環境に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | すすめている。これからも全員のスキルアップの向上の為に積極的に参加していきたい。法人がバックアップし実務者研修や実践者研修などにも参加しやすい環境を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | 地元のケアカフェ(勉強会)など利用はしているが、行事や会議と重なり、参加できていないこともある。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご家族や医療機関と情報を共有し、入居前からご本人の安心が得られるように努力している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族との会話をする機会を積極的に持ち、まずは家族にとっての良き相談相手になれる関係性が持てるよう最大限努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現在の本人、家族のニーズを正確に把握し、サービスの提供、検討を行ったうえでケアプランの作成に生かしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個人の尊厳を尊重し、共に出来る事を行いながら、コミュニケーションを図っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コミュニケーションを大切にすることで、本人と家族の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | これまでの経験や生活スタイルを考慮し、ホームに移っても、大切にしてきた知り合いや家族が常に気持ちよく来て頂けるよう努めている。 | 利用者の馴染みの人や場所は入居時に把握し、関係を継続する大切さを職員に伝えています。職員は利用者の親交のある能楽師の舞台見学に地方へ同行したり、思い出深い大通り公園に外出同行するなど、それぞれの生活習慣に沿った支援を実践しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握したうえで、お手伝い、レクリエーション、外出などを通じ利用者同士が深く関わりあえるよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 連絡や相談に応じられる関係性を続けられるよう努めている。(現在も運営推進会議に参加して頂いている方がいる等) | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションや声掛けの中で利用者様と関わりを多く持ち、本人の思いを最大限にくみ取れる努力をし、職員本位の介護にならぬよう注意している。 | 一人ひとりの思いや意向は、入居時や日常生活の中で把握し、アセスメントに記載しています。会話が困難な利用者は、家族訪問時に職員から健康状態などの情報提供をし、家族からは在宅時代のエピソードなどを聞き、利用者本位の暮らしとなるよう努力をしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | フェイスシートなどの活用や、ご家族との話、本人との対話を通じより一層の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の変化を気付きシート等へ書き込み、職員間での情報共有を行い、常に現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスや会議を含め、日常のご本人やご家族とお話や意見等を取り入れながら、よりよい生活を送って頂ける為の介護計画の作成に取り組んでいる。 | センター方式のアセスメント、ケア日誌などを基に、毎月のカンファレンスで利用者の現状を把握した上で、介護計画を策定しています。介護計画は、利用者一人ひとりの日課を一覧表にして職員間で共有しています。また気づきノートは、計画の実施確認やモニタリングの資料として活用しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録やカンファレンス、日々の情報共有を通じ迅速に現場での実践や見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々の状況に合わせた柔軟な支援に最大限取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現状において活用はしているが、今後はさらに活用できるよう意識していきたい。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居の際にかかりつけ医の希望確認をし、訪問診療に置いては、24時間対応をしていただけることにより、利用者も家族、職員も適切で安心した医療が受けられている。 | 入居時にかかりつけ医の継続受診が可能な事を伝えていますが、現在利用者全員が協力医療機関を利用しています。8カ所の医療機関、3カ所の歯科医院と協力関係があり、月2回の訪問診療や口腔指導、通院同行も含め利用者に合わせて受診の支援を行っています。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 温度盤や、看護記録と共に状態に応じ受診や看護を受けられるよう支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|--|---|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族との連携やソーシャルワーカーとの情報交換・相談に努め、関係づくりを行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 入居時に終末期に向けた取り組みまでを説明しており、入居後は段階により、家族と医療関係者、職員とで話し合いチームケアに取り組んでいる。 | 事業所開設当初からターミナルケアを実践しています。入居時に家族へ最期まで生活が可能なる事を伝え、重度化、終末期にはターミナルケア説明書を用いて、利用者の状況を伝え家族の意向を確認しながら方針を検討しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 行っているが、今後もさらに実践力を身につけていきたい。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練の実施や地域との協力で災害対策を築いている。(併設施設のグランドハウス緑苑に避難出来る体制が整っている) | ハザードマップで事業所の災害リスクを把握しています。今年度は9月に日中・火災想定避難訓練で、車椅子の救助方法を職員間で確認、共有しています。隣接する同法人の高齢者施設は最新の耐震設計で非常食の備蓄・自家発電があり、一時避難先としています。 | 前回課題点の地域住民の協力体制について、運営推進会議で検討し、現時点では町内住民の協力を得ています。より実践的な避難訓練とするため、火災発生場所を想定しない、日時を指定しない等の抜き打ち訓練で課題を把握することが期待されます。 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自分がされて嫌なことはしないを信条に、一人一人のこれまでの生活環境や人格を尊重した言葉遣いや対応を心掛けている。 | 管理者は、利用者一人ひとりの人生の歩みや長所を職員に伝え、敬意をこめた介護につながるようになっています。介助が増えてきた利用者には特に心情を察するようにも伝えていきます。理念の「心と心のふれあい」は職員に浸透し、事業所全体が穏やかで温かい雰囲気となっています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを通じ自己決定や希望を表せるような関係づくりに努め、その人らしさを重視した対応に心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 毎日の生活において、利用者一人一人のペースを最大限に考慮した支援に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問美容や洋服の買い物を含め、日常も常に清潔に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々の嗜好に配慮している。また、食事の盛り付けや、食器洗い・食器拭き等も職員と利用者様が一緒に行っている。 | 食事は隣接する高齢者施設で作られ、盛り付けや食器洗い等は、利用者が職員と一緒にしています。餅つきなどの行事食は利用者に好評です。食事摂取状況や残食確認を行い、それに基づき月1回の給食会議でメニューを検討しています。また、体調に合わせて個別に事業所にて調理を行う別食対応もしています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者個々の食事量・水分量を記録し摂取量が少ない方は食事内容の変更や(ミキサー食等)別紙対応を行うなど、一人一人の現状把握、支援に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | それぞれの口腔状態に合わせた口腔ブラシや舌ブラシ、歯間ブラシを用いて対応している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握し、誘導を含め排泄の習慣・維持に努め、可能な限りオムツの使用を控えるよう努力を行っている。 | 排泄チェックは月ごとの一覧表にバイタルと共に記録し、習慣やパターンに応じた自立排泄の支援をしています。排泄自立者が利用するトイレには、使用中を知らせる札があり、また使用後の支援を職員に伝える鈴を置くなど、プライバシー配慮への工夫もあります。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 様々な飲み物を用意して、水分摂取量に注意し、運動も取り入れ、下剤や座薬の使用を最小限に抑える努力をしている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている | 土曜日以外は入浴できる環境にある為、なるべく個々の体調やタイミングに合わせた入浴支援が行えるよう努めている。 | 入浴可能日は週6日で、一日4、5人が利用しています。入浴日が多いことで、利用者の体調やタイミングに合わせた支援を余裕をもって行っています。入浴を拒む利用者は洗髪や足浴、着替えのみと状況に合わせて対応をしています。保湿剤を使用して肌の乾燥を予防しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々に合わせた運動や日光浴を行ったり、体調に合わせてながら休息をとるなど快眠に繋がる努力をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の服薬状況を常にチェック出来る体制を準備しており、職員が一致した認識を持ったうえでの支援に努めている。(個々の状況に応じて、薬剤師との連携のもと服薬の工夫を行っている。又、二重チェックを徹底し、誤薬防止に努めている) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれが残存機能を生かして、役割や楽しみを持った日常を送れるように常に支援している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 春のお花見、夏の遠出の外出行事、秋の紅葉、文化祭等の外出の機会を増やし、また希望に沿って家族とも出かけられるように支援している。遠出の困難な方も、近場での散歩やお茶のみの機会を積極的に設けている。 | 貸出しの大型バスで、花見や近郊のドライブに2ユニット全利用者と出かけています。買い物や外食などの個別支援もしています。庭では日光浴やスイカ割を楽しんだり、近所の藤棚を見に散歩するなど、外出の機会を積極的に設けています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望や能力を考慮したうえで、家族の思いも踏まえ、可能な限り所持して頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 適時対応支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木の温もりを大切に、常に整理整頓や清潔に心掛け、気持ちよく過ごして頂ける環境づくりに努めると共に、季節感も取り入れている。(クリスマス、正月、ひな祭り等) | 玄関や食堂には大きな日本画、廊下の壁には風景画などが複数飾られ、豊かで落ち着いた環境となっています。食堂は広く採光があり、壁面の雛祭りの色紙は季節感を取り入れています。共用空間は掃除が行き届き、トイレや浴室の収納スペースも整理整頓され、快適な生活環境を提供しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間の空間の仕切りや、ソファの設置等を行い、一人ひとりが思いのまま自由に過ごせるよう配慮している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人の意向を取り入れ使い慣れたものを持参いただいたり、好みのものを使用して頂いている。また、各居室の整理整頓に努め、お仏壇のある利用者の方にはご飯、お水をあげる等行っている。 | 居室には、利用者の馴染みの生活用品である桐箆箆等の収納家具や机、テレビなどが配置されています。利用者の個別の状況に合わせ、仏壇のある利用者には、供物の支援をしたり、利用者の状況からリスクを把握して寝具に工夫をするなど、快適で安全な生活環境を提供しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリー、手すりの設置、整理整頓を行い、転倒などのリスク回避に努めている。 | | |